

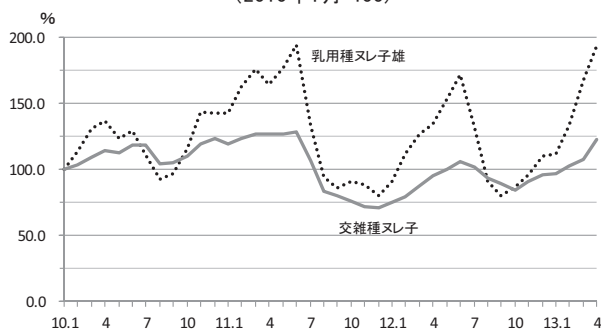
TOPICS 3

トピックス…③ ヌレ子価格上昇の 酪農収益改善効果

配合飼料など流通飼料の値上がりにより、酪農経営の収益性悪化が懸念されている中、副産物価格の主要部分を占める初生牛（ヌレ子）の価格が昨年秋以降急上昇し、生乳生産コスト低減にプラスの作用を及ぼすことが期待されている。

配合飼料の主要供給元であるJ A全農は、2013年4～6月期の配合飼料供給価格について、飼料穀物情勢や外国為替情勢等を踏まえ、同1～3月期に対し、全国全畜種総平均トン当たり約3,200円値上げすることを決定した。さらに、飼料穀物の米国産地における新穀の作付面積の増加が予想されるものの、旧穀の期末在庫率が依然として5%台と低水準であること等から、飼料穀物価格は今後も底堅く推移する見込みであり、配合飼料価格の動向から目を離せない状況が続いている。

酪農経営の副産物価格の推移
(2010年1月=100)



資料：農畜産業振興機構作成資料

このように配合飼料価格が今後とも高水準で推移することが見込まれる中、酪農経営の主要な副産物であるヌレ子の市場取引価格が急上昇している。農畜産業振興機構がまとめた全国主要家畜市場の月別平

均価格をみると、乳用種ヌレ子（雄）は2011年6月に58,511円の高値を記録して以降、大きな変動を繰り返し、12年9月の24,035円の安値を転機に急上昇し、13年4月には58,258円に達した。交雑種ヌレ子は、乳用種ヌレ子（雄）ほどではないものの、ほぼ同じような循環的な変動を繰り返し、13年4月に142,081円の高値を記録した。図は、2010年1月を100として、その後の市場取引価格の月別推移を示している。とくに、乳用種ヌレ子（雄）の価格上昇は、90%以上の確率で雌牛が生まれる雌雄選別精液の利用拡大により、肥育素牛として供給される乳用種ヌレ子（雄）の出生頭数が減少していることが一因と言われている。

さらに表では、農林水産省「牛乳生産費」から副産物価格のうち子牛価格と流通飼料費の年度別推移を示している。生乳100kg（乳脂肪分3.5%換算）当たり生産費に占める両者の絶対値には大きな差が見られる。しかし、両者の変化を比較すると注目すべき点が見られる。つまり、流通飼料費が41円上昇した2010年度には、ヌレ子価格が108円と流通飼料費以上の上昇を示したことにより、収益性の改善に多少なりとも寄与したことが推察される。したがって、配合飼料価格の高止まりが見込まれる厳しい状況のもと、昨年秋以降のヌレ子価格の上昇が持続して、収益性の悪化を緩和することに少しでも効果を発揮することを期待したい。

生乳100kg(乳脂肪分3.5%換算)当たりの
副産物価格(子牛)等の推移

単位：円

	2009年度		2010年度		2011年度	
		対前年度		対前年度		対前年度
副産物価格 (子牛)	493	9	601	108	586	▲ 15
流通 飼料費	2,815	▲ 277	2,856	41	3,028	172

資料：農林水産省大臣官房統計部「牛乳生産費」